

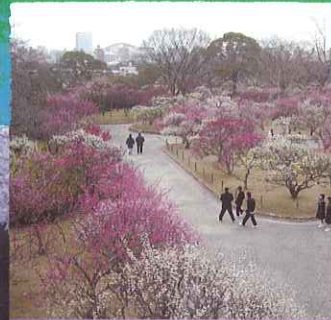
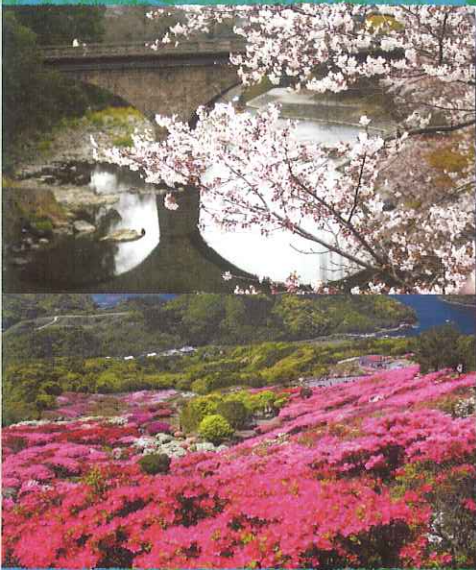
九州風景街道

道守通信特別号 2007

特集「風景街道 元年」

景観、自然、歴史や文化、人や食…

九州の魅力発信する、 9つの風景街道 本格スタート



座談会「九州風景街道、その魅力とこれからの展開」

風景街道づくり、 九州の新しい挑戦として

巻頭随想

「懐かしい風景に、未来がある」
人と鳥、自由に行き来し、
安らぐ風景街道を。 — 柳生 博



MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.16 冬号

やまなみハイウェイや湯布院などを訪ね、「九州には風景街道の原風景がある」と感動した。景観だけじゃない。人々は道を大事にしている、行き交う人々をもてなす心がある、と。

風景街道って、最初はピンと来なかった。初会合で役所や産業界の人々の話を聞きながら、次第に場違いな気持ちに襲われた。最後に指名されて「論議に生きものたちが登場しないのは変」と、違和感をずばり言った。だって、人の道と同様、生きものにも道がある。鳥たちには空の道、魚たちには海の道。人と生きものが折り合いをつけてこそ風景街道。人優先、産業や効率優先への反省、その先を探っているのが風景街道でしょう、とね。

2回目から一気に生きもの話が出始めた。各委員も生きもの話を調べられたりしたようで会合が楽しくなった。それでね、オホーツク視察のとき、僕はちよっと先回りしてオジロワシがいる場所と時間を調べて、一行を迎え、見てもらった。みなさん感動した。僕は現地の人になり代わり、自慢でしたよ。

鳥や蝶の渡りは人の旅に似ているが、羽を休める場、つまり寄り道できる場が極端に減った。例えば水辺がない。青々とした佐賀平野も冬場は、鳥たちには砂漠に見えるんだ。田10枚に1枚でもいい、水を張れば鳥たちがやってくる。出水の越冬ツルも田の水張りから始まった。

「九州風景街道」への期待



国土交通省道路局局长
宮田年耕

日本風景街道は、国土文化の再興に向けて、文化資源の保存や保護、活用だけでなく、美しい国土景観の形成、地域活性化や観光振興を有機的につなぐものであり、道を舞台に、多様な主体の協働により行われる取り組みです。今年、4月に「日本風景街道戦略会議」により取りまとめられた提言を受けて、本格的な取り組みが始まる、いわば「風景街道元年」といえる年です。

九州には、神話やアジア交流などの歴史・文化、豊かな自然資源を基盤とした美しい景観など、豊かな地域資源に非常に恵まれています。また、毎年多くの旅行者が全国、あるいは世界から訪問しています。道路に関する事で申し上げれば、「道守」の方々をはじめとした非常に大勢の方々にご協力をいただきながら美しいみちづくりに努めております。風景街道は、これらの非常に豊かな地域資源や人々のエネルギーを活かしながら進められる取り組みです。今後、九州において、地域の方々の活躍のもと日本風景街道の取り組みが進められ、さらには、九州全体の発展につながっていくことを期待しております。



九州風景街道推進会議会長
明石博義

私たちが暮らすこの九州は、長きにわたる人々の暮らしや、歴史・伝統に根ざした風景資源を各地に数多く有した、大変魅力的な地であります。しかし、高度経済成長期における国土づくり、まちづくりの過程で、経済性や効率性が過度に重視され、その結果美しさへの配慮を欠いた、雑然とした景観が全国各地で見られるようになり、また、公共空間でのゴミ投棄など、国民のモラルを問われる事例も散見されるようになりました。九州もその例外ではありません。

一方、九州はその魅力ゆえに、地域に強い愛着を持ち、魅力の保全や高度化に取り組まれている方がたくさんいらっしゃる地域でもあります。各地に点在する豊かな「風景資源」と、これを活かそうとする豊富な「人的資源」を有機的に結び付け、存在価値を高めることで、地域の自立と共生につながるばかりでなく、アジアを含めた様々な地域と交流し連携を図っていく土壌づくりができるのではないかと思います。

そして、各地域の風景街道で実施されている活動が、適切なサポートのもと、より充実したものへと転化し、その結果、九州の風景街道が、地域の人々にとっても、九州を訪れる人々にとっても魅力的なものになり、更には九州全体の魅力が高くなることを期待しております。

「懐かしい風景に
未来がある」



柳生博

稲作では6月ごろ、水を抜いて田の中干しをする。オタマジヤクシも干からびる。少し遅らせられれば、蛙になれ、生きのびて害虫をたくさん食べる。蛙やドジョウは鳥たちの餌に。努力が積み重なったのが、兵庫豊岡に蘇ったコウノトリだ。3年前から放鳥し、去年のはつがいになって、今年の子を育て始めた。島根の宍道湖まで飛んで行ったのもいるが戻ってきた。途中、安住の地が見つからなかったらどううね。

僕は農家の出身。子供のころ、農作業をいっぱい手伝わされた。よそに自由に飛んでいける鳥に憧れた。コウノトリ保護支援や野鳥の会活動、八ヶ岳での雑木林づくりの原点かな。日本では手付かずの自然というのは例外で、どこでも人と生きものが折り合う場なんだ。小さな水辺、実のなる木の植栽、雑木林、ビル屋上植栽だっていい。そうすれば季節ごとに鳥たちがやってくる。

ここ（東京港野鳥公園）も埋立地の水溜りから始まったんだ。みんなが大事にして、林に干潟に雨水池に、違った鳥がくる。ほら、ダイサギだ。あれはカワウ。こんな懐かしい風景に、確かな未来がある。野鳥の会会員が道守になったり、道守が鳥のために実のなる木を植栽したり、そんな風景街道を描いてほしいなあ。（談）

柳生博（俳優・日本野鳥の会会長・日本風景街道戦略会議委員）
1937年茨城県生まれ。剣豪柳生一族の末裔。東京商船大中退後、俳優座養成所へ入所し俳優に。NHK「生きもの地球紀行」ナレーターなども担当。70年代末に山梨県大泉村（現北杜市）へ転居し、雑木林の復活を始め、89年に八ヶ岳倶楽部を開く。04年から（財）日本野鳥の会会長。著書に「八ヶ岳倶楽部 森と暮らす森に学ぶ」など。

景観、自然、歴史や文化、人や食……

九州の魅力発信する、 9つの風景街道 本格スタート

第1回登録ルート決定

”風景街道づくり“はじまる——道守が推進力

九州の”風景街道“が、いよいよ本格的に動きはじめた。11月26日、九州風景街道へ登録申請した9ルートが正式に承認され、九州風景街道推進会議・明石博義会長から各風景街道の代表者へ、登録証が交付された。各ルートでは、3年後に行われる全国的な評価をめざして”風景街道づくり“を進めていく。

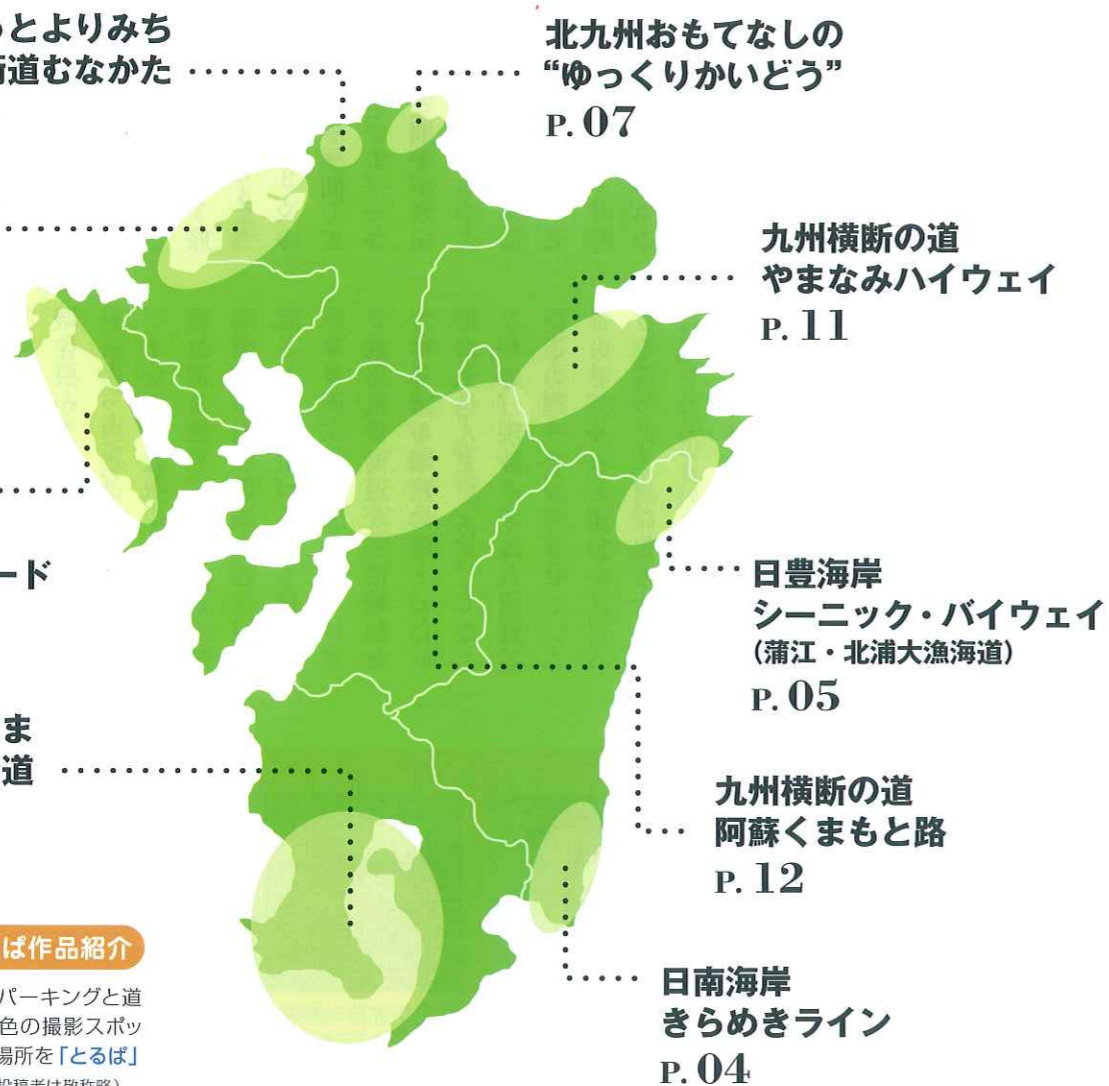
道を舞台に、景観、自然、歴史や文化、人や食などの多様な地域資源を見つめなおし、

みがき、つないでいく”風景街道づくり“には、道をテーマに活動する道守（会員数約4万5000人・07年10月末現在）も多数参加している。04年の道守九州会議発足以来、住民と行政がいつしよになって築いてきた”道守“のネットワーク、地域の清掃や植栽などの地道な活動は、九州の風景街道づくりの大きな推進力となる。

今回の道守通信冬号は「九州風景街道」をテーマに、登録ルートの紹介、九州での展開や議論、米国や北海道の先進事例、地域の景観づくりへの取り組みなどを広く取り上げた。



「九州風景街道」登録証交付式の参加者



「ちょっと寄り道」とるば作品紹介



安全に駐車できるパーキングと道路沿いの美しい景色の撮影スポットがセットになった場所を「とるば」と読んでいます。(投稿者は敬称略)

九州風景街道

道守通信特別号 2007

目次

巻頭随想

「懐かしい風景に、未来がある」
人と鳥、自由に行き来し、安らぐ風景街道を。— 柳生 博

九州風景街道への期待 **P.01**

特集「風景街道 元年」

景観、自然、歴史や文化、人や食……
九州の魅力発信する、9つの風景街道本格スタート **P.03**

座談会「九州風景街道、その魅力とこれからの展開」
風景街道づくり、九州の新しい挑戦として **P.13**

「日本風景街道」と九州での展開について **P.18**

シーニックバイウェイ先進事例[北海道・米国] **P.20**

新たなルートの可能性を探る<1>
奄美 緑と、歴史と、道と、重層の島
風景街道にチャレンジ 世界自然遺産へ 人々集う **P.22**

新たなルートの可能性を探る<2>
魏志倭人伝のみちが蘇る 日韓の風景街道
～日韓シーニックバイウェイを構想する～ **P.24**

地域一体 風景街道づくり[指宿・唐津] **P.26**

お知らせ／編集後記 **P.28**

表紙画 = 久富正美(1935年福岡県生まれ、「小さい旗」同人、グループ「五架会」会員)。
表紙写真 = とるば投稿写真フォトコンテスト入賞作品より

日南海岸きらめきライン

亜熱帯植物で道空間を演出 鶴戸・飢肥街道の発掘も

フェニックスやハイビスカスなどの亜熱帯植物が沿道を彩る国道220号がメインルート。同ルート上に息づく神話と歴史の道づくりを進めている。



国道220号は、きらめく青い海と波状岩が絶景を誇る全国屈指のドライブルート。一方、同ルート上に神武天皇の父上を祭る鶴戸神社、祖父の山彦を祭る青島神社など神話の地が連なっており、旅もまた趣き深いものがあります。私たちは3つの道づくりを展開していく予定です。一つは、道空間をデザインする「うつくし」の道づくり。日本初のロードパークで名高い国道220号を中心に、「みちの景観診断」を行い、道路管理者と活動団体との新たな協働の仕組みづくりに反映させる計画です。

もてなしの道づくりでは、江戸時代に開削された堀川運河で有名な日南市油津地区で、「通り名で

道案内」と称する社会実験を国土交通省の支援のもと11月〜来年2月まで実施。油津の地域住民が主体となり訪れる人を心からもてなします。

また、神社を中心に神話の地を巡る旅や、鶴戸街道、飢肥街道の発掘調査を行う、神話と歴史の道づくりも進めていきます。

九州風景街道が本格始動した本年度を飛躍の年としたいと意気込んでいます。しかしながら、現時点では九州風景街道の理念を浸透させていくことと、ルート運営のノウハウを持った人材確保が大きな課題となっています。思いを同じくする九州の他のルートと連携しながら課題を克服していければと考えています。



日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会会長。旅館経営に携わるとともに、青島から串間をエリアとした日南海岸活性化協議会の会長を務める。

日豊海岸シーニックバイウェイ

(蒲江・北浦大漁海道)

伊勢えびで県境ルート拡大 マリンスライフで充実した余暇を

エリアは大分県佐伯市蒲江から宮崎県延岡市にまたがる地域。リアス式海岸特有の地形、水産資源の伊勢えびを利用した産業、観光事業を推進している。

日豊海岸シーニックバイウェイ(通称・蒲江・北浦大漁海道)ルートは、大分県佐伯市蒲江から宮崎県延岡市を結ぶ国道388号を中心に、複数の県道、広域農道にまたがる周辺地域の取り組みにより形成されています。

現在では、23の地域民間団体を中心に、各方面で地域活動を実践しています。その中でも、食とブルーツーリズムによる地域づくりが盛んに実施されています。

ブルーツーリズムとは、島や沿海部に滞在し、魅力的で充実したマリンスライフの体験を通じて心と体をリフレッシュさせる余暇活動です。

東九州伊勢えび海道事業「伊勢えび祭り」の開催、ブルー



ツーリズム体験により地域を学ぶ「あまべ渡世大学」の開校などが一例として挙げられます。これまで、あまべ渡世大学では「みつ兄の真珠の核入れ体験とアクセサリー作り」や「まあ姉の伊勢えびさばき方講座」などを催してきました。

今後は、ルートの広域化、観光ルート整備を目的として、大分県側は津久見市、臼杵市を経て大分市佐賀関、宮崎県側は日向市までをエリア対象として考えています。東九州伊勢えび海道事業を柱に県境を越えて連携を強化し、地域づくり活動団体との意見交換や交流、地域活性化と交流人口の拡大を図っていきます。



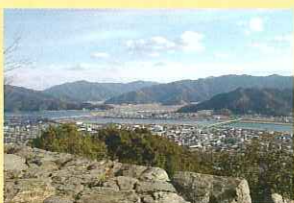
日豊海岸シーニックバイウェイ研究会会長。民宿を営む傍ら佐伯市蒲江の観光事業推進に邁進する蒲江のトップリーダー。

ちよつと寄り道

お近くのとはば



九州とはば



1 佐伯城跡からの眺め
大分県佐伯市大手町
[佐伯市営駐車場]
投稿者: 佐伯花子



2 唄げんか大橋〜三重〜野津
大分県佐伯市宇目大字南田原
[道の駅「宇目」]
投稿者: 那木貞文



3 道の駅「北浦」の海
宮崎県延岡市北浦町大字古江
[道の駅「北浦」]
投稿者: にがりちゃん



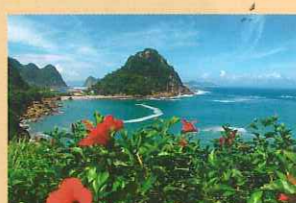
4 愛宕山展望台からの夜景(延岡市)
宮崎県延岡市愛宕山
[愛宕山公園駐車場]
投稿者: まるも



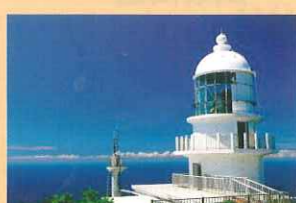
1 いるか岬
宮崎県日南市大字伊比井
[いるか岬]
投稿者: shinji28



2 日南海岸のはまゆう
宮崎県日南市大字宮浦
[小吹毛井第1パーキング]
投稿者: 日南海岸



3 日南海岸南郷町
宮崎県串間市夫木浦
[夫木浦パーキング]
投稿者: EBI



4 夏の都井岬
宮崎県串間市都井岬
[都井岬駐車場]
投稿者: 坂下裕幸

ちよつと寄り道

お近くのとはば



九州とはば

ながさきサンセット・オーシャンロード

世界遺産候補で観光ルート開発 教会群をつなぎ、広域連携へ

長崎県西海岸沿線の平戸市、佐世保市、西海市などを通って長崎市にいたるコース。世界遺産に暫定リスト入りした「長崎の教会群」とキリスト教関連遺産」を通した魅力ある地域づくりを行っている。



くまなく走るため、どこからでも西の海に沈む夕日が存分に楽しめるコースです。また、いままもキリスト教の

伝統を色濃く受け継ぐ「ながさき巡礼」のルートとも重なります。

自然と文化の両方を満たす本来の意味でのシーニックバイウェイとして、沿線の活動団体との協働により、長崎県を代表する風景街道に育てていきたいと思っています。

ながさきサンセット・オーシャンロードは、橋などのビュースポットを生かした新たな観光ルートづくり。訪れた人に、歴史や文化、自然を体験してもらい、地域の活性化を図ります。

そのため、4つのことを計画しています。地域再発見バスツアーや車座談義などの「組織づくり」。「雪の浦ウイーク」に学ぶ手作りイベント成功の「コツ」と題した勉強会などでの「人づくり」の強化。地域を結ぶ花街道づくりなどでしっかりとした「舞台づくり」を行い、「夕日・教会・橋のフォトコンテスト」で「しかげづくり」を展開していきます。

今後は、風景街道のコンセプトの浸透が地域によって差があるため、研究会やシンポジウムなどの意識や連携を深めていく活動を地道に重ねる必要があります。キリスト教の歴史や遺産がいまも生きる教会群が魅力の五島、島原、天草との連携も検討していきます。



紹介者 籠手田 恵夫
ながさきサンセット・オーシャンロード推進協議会会長。ガイド活動を行う一方、平戸観光宣伝、まちおこしイベントなどに参画。2007年に社団法人平戸観光協会会長。

北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”

本州、アジアの玄関口が舞台 「かわら版」発行で活動共有

江戸時代の面影が残る長崎街道、門司往還の沿線、大正ロマン漂う門司港レトロ地区が対象のルート。アジアの玄関口・北九州の“おもてなし”を形に表すことを目指す。



北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”は、ロマン漂う延長約40kmのルート。古くから本州やアジアの玄関口（交通の要衝）として多くの人が行き交い、にぎわい、栄えた歴史がいまも脈打っています。徒歩で散歩でき、歴史、文化や美しい景色を“ゆっくり”と味わえるのが魅力です。風景街道の取り組みによって、各団体の活動が充実、発展し、喜んでもらえるように努め、地域の活性化や北九州の都市イメージの向上にも貢献していきたいと考えています。まずは、各地域・団体が共有できる活

動からはじめていこうと、歴史遺産や美しい風景も紹介する「かわら版」などの団体交流誌の発行、共通パンフレットの作成を検討。街道ウォークや散策ツアーなど、ネットワークづくり、各団体の連携強化のためのイベント実施も目指します。今後は、地域や郷土愛をはぐくめる取り組みとすること、また、北九州の“おもてなし”を、ルート名にも使用していることから、迎える人の「おもてなしの心」が伝わるよう具体的な形として表現。将来は、佐賀や長崎にも拡大する活動に発展させることなどを課題とし、団体相互の情報共有と交流促進に重点を置いた活動を展開していく予定です。



紹介者 高宮 威雄
北九州風景街道（長崎街道）推進協議会会長。「みちの郷土史料館」と「こやのせせ」からなる長崎街道木屋瀬宿記念館の運営協議会理事長。

ちよつと寄り道

お近くのとはば



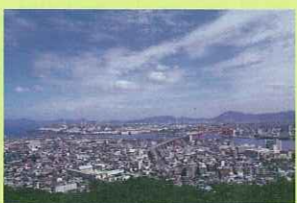
九州とるば



① 光るハイウェイ
福岡県北九州市門司区大字門司
[源平合戦の壁面前駐車場(第2展望台駐車場)]
投稿者：外尾英介



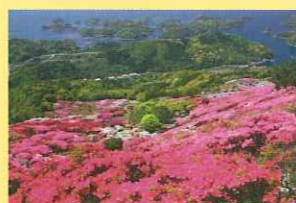
② レトロ展望台とはね橋
福岡県北九州市門司区清滝
[驛市場]
投稿者：鳥本達哉



③ 若松屋景
福岡県北九州市若松区修多羅
[高塔山公園駐車場]
投稿者：入江 弘



④ 曲里の松並木
福岡県北九州市八幡西区東曲里町
[北九州プリンスホテル]
投稿者：まっちゃん



① 九十九島の春1
長崎県北松浦郡鹿町町長申免
[長申山公園駐車場]
投稿者：入江 弘



② 夕照の輝き
長崎県佐世保市船越
[石岳展望台駐車場]
投稿者：田中 務



③ 黒崎教会
長崎県長崎市下黒崎町
[黒崎教会駐車場]
投稿者：mine



④ 長崎港の風景
長崎県長崎市戸町
[女神大橋展望SA]
投稿者：鳥越英次郎

ちよつと寄り道

お近くのとはば



九州とるば

ちよつとよりみち 唐津街道むなかた

情緒あふれる「赤間宿」「原町」 歴史街道を 歩行者天国に

宗像市を通る唐津街道には「赤間宿」と「原町」の二つの昔なつかしいまちなみが残る。ゆつくりとまちを散策してもらおう仕組みづくりや、まちの情報発信に力を入れている。



辻井戸や造り酒屋をはじめとする大きな商家など、江戸時代からの建物が多く残る筑前21宿の一つ「赤間宿」。

まちにあふれる緑と古民家の調和が美しく、癒やしの風景が広がる「原町」。どちらも美術・工芸が盛んで、個人美術館やギャラリーが街道沿いで営まれています。

現在、歴史的まちなみを生かしたまちづくり推進のため、灯ろうの設置、道路の美化を進めています。原町では、街道沿いの歴史的環境を継承していくことを目的に、住民が「ま

ちづくり協定」を策定。協定に基づいた建物の修景が行われています。

毎年9月には、にぎわい再生イベント「九州大道芸まつりIN宗像」を開催。街道を歩行者天国とし、魅力の発信に努めています。

今後、取り組みを一層推進していくとともに、案内パンフレットの作成、情報サイトの充実など、仕組みづくりやまちの情報発信に力を入れていきたいと考えています。また現在、唐津街道沿道において、地域単位で行われている活動をルートとしてつないでいくため、ルートの明確化、サインの体系化、イベントの共同開催など、各地域と連携を図る取り組みを検討中です。



紹介者 時安正明
唐津街道むなかた推進協議会会長。原町を中心に地域おこしを推進する唐津街道南郷協議会会長も務める。

かごしま風景街道

桜島、指宿で景観整備重点に 天文館や東シナ海岸の活動継続へ

鹿児島市のシンボルである桜島、歴史のまち鹿児島市、温泉のまち指宿、そして風光明媚な景観の南薩など「鹿児島らしい風景」をテーマに、風景を楽しむ道づくりを進める。



鹿児島市から南さつま市に至る総延長19.2km「桜島ルート」「鹿児島ルート」「指宿ルート」「南薩ルート」の4ブロックで構成しています。

これからの活動は、鹿児島らしい風景に重点を置き、道路を軸として「残したい風景の保存」「好ましくない風景の改善」「風景の活用」を行い、ドラ

国立公園らしい風景整備を予定しています。現存する白浜の石畳道や海軍基地壕跡、砂浜を掘ると温泉が出る海岸などの史跡や自然景観などの地域資源の再発見、清掃・除草活動などで地域資源の価値を高めます。

また、指宿ルートでは指宿の玄関口・大園原交差点での景観整備事業を実施しました。沿道に乱立する看板の整理や施設の改善など、「負の遺産」の精算も進めています。

これまで好評の天文館地区でのオープンカフェや演奏会、南薩ルートの東シナ海岸を生かした民泊型修学旅行でのイルカウォッチングなどは今後も続けていく予定です。

風景を楽しむための方法として、エコツーリズム、体験プログラム、まち歩き、フォトコンテストなどを積極的に進めたいと、人材の育成も進めています。



紹介者 福島大輔
かごしま風景街道推進協議会会長。桜島をまるごと博物館として、現地で本物を見て体感できる新しい形の博物館を目指す「桜島ミュージアム」理事長。

ちよつと寄り道 お近くのとはば



①夏の桜島
鹿児島県垂水市市木字荒崎
[荒崎パーキング]
投稿者：坂下裕幸



②早春の池田湖
鹿児島県指宿市池田湖
[池田湖パラダイス駐車場]
投稿者：EBI



③入来武家屋敷跡
鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名
[入来武家屋敷跡]
投稿者：薩摩川内市



④人形岩
鹿児島県薩摩川内市西方町
[人形岩駐車場]
投稿者：薩摩川内市役所建設調整課



①三里松原の海岸線
福岡県遠賀郡岡垣町
[遠賀宗像自転車道(波津海岸)]
投稿者：岡垣町役場地域づくり課



②神湊
福岡県宗像市神湊
[神湊漁業協同組合有料駐車場]
投稿者：船越弘基



③桜公園
福岡県宗像市田久
[田久桜公園]
投稿者：福岡県宗像市

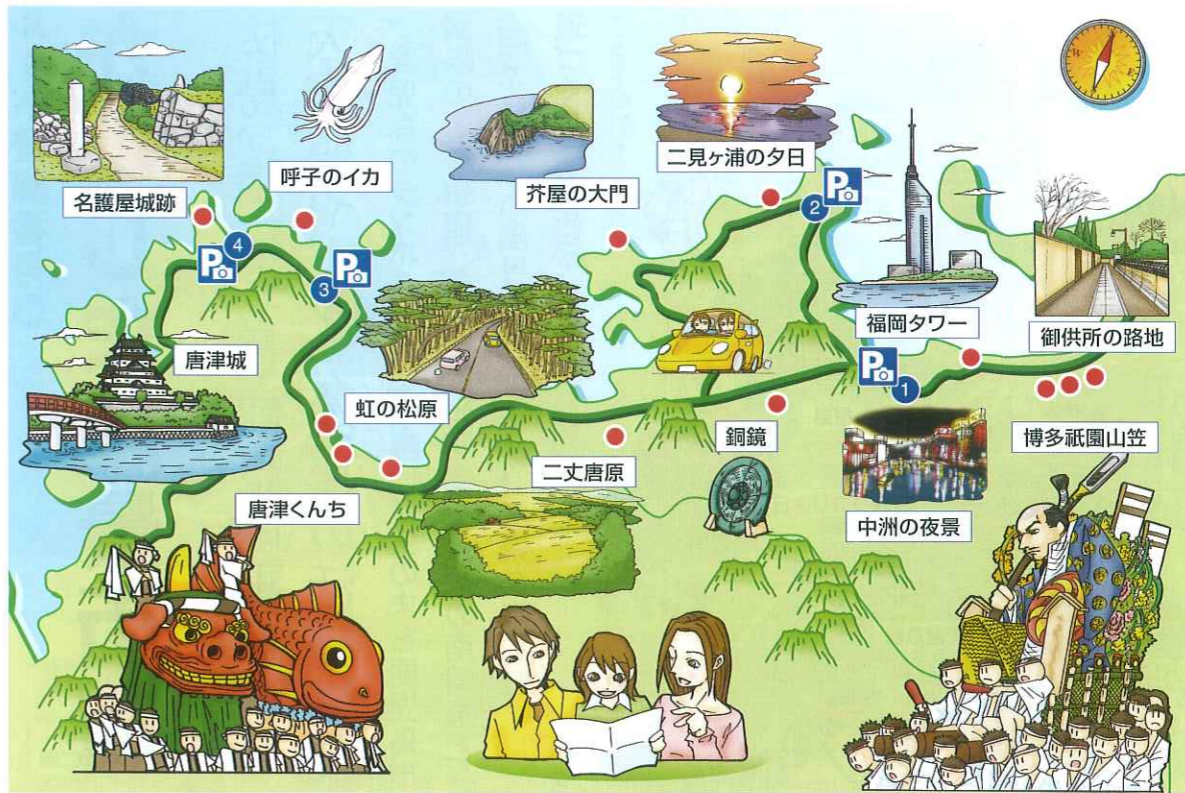


④西郷川花園(菜の花)
福岡県福津市大字津丸
[西郷川花園]
投稿者：ほっちゃん

ちよつと寄り道 お近くのとはば



玄界灘風景街道



福博と海浜ゾーンを対比 虹の松原、白砂青松で連携

古くからアジアとの交流の舞台だった玄界灘を臨む福岡・糸島・唐津は、海岸線の白浜と松の緑でつながる約157km。近代的空間と歴史的空間を対比する面白さや魅力を発信していく。

玄界灘風景街道は、車で2時間ほどの距離にありながら「歴史の深み」「個性的な文化」「豊かな自然」、そして「近代的な都市の楽しさ」にあふれています。これを近代的空間の「福岡・博多（福博ゾーン）」と歴史的空間の「唐津・糸島・福岡市沿岸部（海浜ゾーン）」に分け、対照的なものを対比する面白さや、それぞれのゾーンが持つ魅力を引き出していく活動を目指します。

や豊かな環境をつくるための活動なども実施。虹の松原、白砂青松の海岸などの多彩な自然を生かし、各団体との連携や幅広いネットワーク形成にも力を注いでいます。これらの活動を通して、人々の思いや、さまざまな魅力をつなぎ、訪れた人が立ち寄り、時には歩いて楽しく、2時間で走りすぎるのがもったいないと感じるような「みちづくり」を検討。また、福岡県、佐賀県の2県をまたがるルートであるため、今後、構成団体相互の十分な連携を深めていく考えです。

福博ゾーンでは、天神地区の魅力を上向きに、集客力の向上、都心活力向上に寄与するため、「歩いて楽しいまち」を目指したイベントなどを開催。「まちづくりガイドライン」の作成なども行っています。海浜ゾーンでは、埋め立てられた博多湾・百道地区に松原を復元しようと、松苗植樹

紹介者
岩本真一
玄界灘風景街道パートナーシップ代表。打ち水キャンペーンや虹の松原で清掃活動に取り組むNPO法人唐津環境防災推進機構KANNEの理事長。

九州横断の道 やまなみハイウェイ



やまなみハイウェイ沿いの景観保存 名湯、秘湯、郷土料理でおもてなし

別府市から阿蘇市を結ぶ「やまなみハイウェイ」は、阿蘇くじゅう国立公園をめぐる日本屈指の観光道路。開通後40年を経過し、風景は劣化。かつて訪れた人々に感動を与えた美しい風景を取り戻す活動を進める。

やまなみハイウェイ（県道11号）は雄大なくじゅう連山、飯田高原などの大草原が広がり、ぐるっとくじゅう周遊道路や岡城址までの国道442号などの魅力的なハイウェイ（わき道）で構成する地域がフィールドです。

近年、やまなみハイウェイの優れた景観も徐々に変化しつつあります。風景の変化は、人々の暮らしの変化であり、地域協働、世代交代、産業の活性、自然界の適正利用などに問題があれば、自然と人、暮らしとのバランスが崩れ、風景は劣化していくようです。

私たちはやまなみハイウェイの風景テーマを大きく5つに分類しました。草原風景、農村風景、街並み風景、自然・森林風景、施設景観デザインという、美しい日本を感じさせる風景を取り戻す試みを続けていきます。

その一つとして、風景を守る担い手の活動支援と地域の生活の向上を考えています。自然と人の暮らしが調和し、地域が元気になったその暮らしの中から育った本物の風景こそが、訪れた人々の感動を呼ぶと信じています。

そこに住む人がある限り、そこを訪れる人がある限り、時が経てば経つほど美しくなっていく「やまなみハイウェイから観る風景」を目指します。また、これまでやまなみのダイナミックな景色で素通りされることが多かった、名湯や秘湯、歴史的遺産などの掘り起こしも進めていきます。

紹介者
久恒雄一郎
九州横断の道やまなみハイウェイ協議会会長。林業経営に携わり、林業に関する環境問題にも関心を寄せる。九重飯田高原観光協会事務局長も兼務。



④ 呼子大橋と弁天遊歩道
佐賀県唐津市呼子町殿ノ浦
[呼子大橋駐車場]
投稿者：坂元靖秀



③ 七ツ釜
佐賀県唐津市横野
[七ツ釜]
投稿者：唐津市観光課



② 二見ヶ浦
福岡県糸島郡志摩町大字桜井
[二見ヶ浦駐車場]
投稿者：長 吉秀



① 愛宕神社から福岡市の眺め
福岡市西区愛宕2丁目
[愛宕神社駐車場]
投稿者：とるばーこ☆



④ 岡城跡
大分県竹田市竹田2765
[岡城跡駐車場]
投稿者：石津幸次



③ くじゅう賛歌(6)
大分県玖珠郡九重町大字田野字長者原
[長者原公共駐車場]
投稿者：小嶋勇介



② 狭霧台より野焼き
大分県由布市湯布院町川上
[狭霧台(さざりだい)]
投稿者：Aki



① ゆけむり展望台
大分県別府市鉄輪
[別府湯けむり展望台]
投稿者：平野芳弘



風景街道づくり —九州の新しい挑戦として



出席者

※2007年10月15日収録、
肩書きは座談会収録
当時のもの

九州風景街道推進会議会長：明石博義氏
国土交通省九州地方整備局長：小原恒平氏
九州大学大学院工学研究院准教授：樋口明彦氏
由布院温泉観光協会会長：桑野和泉氏
コーディネーター：玉川孝道氏



明石博義氏
1958年西日本鉄道入社。99
年社長、05年会長、現在に
至る。福岡県経営者協会会長、
社団法人福岡県観光連盟
会長など兼任。

しかし、九州をつぶさに見てみま
す。九州をめぐると、北海道と九州とでは
美しい自然や風景、おいしい食べ物
といったイメージでは、九州がかな
り劣っているという結果が出ており
ます。

九州の景観や風景街道には、どんな
魅力や可能性があるのでしょうか。
九州経済調査協会が首都圏在
住の女性を対象に行ったアンケート
調査によると、北海道と九州とでは
美しい自然や風景、おいしい食べ物
といったイメージでは、九州がかな
り劣っているという結果が出ており
ます。

もっと九州を自慢しよう

これから九州の風景街道がどう活動し、競争力を養ってい
くかが大事になってきた。果たして九州の風景街道に国内外
からどれだけの人たちが訪れてくれるのか。より魅力的な
風景街道を創っていくにはどうすればいいのか。話し合っ
てもらった。

すど、全国に28ある国立公園のうち、
5ヶ所が九州内で指定されています。
雲仙や阿蘇などの火山群の風景や、
リアス式海岸や島々で構成される海
岸線の美しさ、温泉の数や湧出量の
豊かさ、あるいは郷土料理、新鮮な
魚介類など多様な食文化もあります。
また九州には古事記や日本書紀の時
代から連綿と続く奥深い歴史があり、
別府の油屋熊八氏や、宮崎の岩切章
太郎氏ら先人が、数々の取り組みに
よって国内外から観光客を誘致し、
観光産業を発展させてきた経緯があ
ります。ただ、その多彩な観光資源
を持つ九州の良さを、九州に住んで
いる私たち自身が、身近にあるがゆ
えに気づかずにいるということがあ
るのではないのでしょうか。

玉川 九州には多種多様な資源があ
るのに、それを活かしてきいていない
という指摘ですが、それはなぜで
しょうか。

ルート登録番号①
九州横断の道
阿蘇くまもと路

阿蘇は大空と大草原が
りなす雄大な景観、のんび
りとした放牧風景、黒川温
泉をはじめ泉質のよい温泉
が点在しています。年間を
通じて四季折々の美しい姿
を見せ、写真愛好家の人気
スポットともなっています。
阿蘇と熊本をつなぐ道は、
その昔、加藤清正が造った
豊後街道でした。熊本と大
分の鶴崎を結ぶ道で、江戸
時代細川藩の参勤交代路と
しても利用されたのです。
当時の武士たちは、熊本城
を出発して雄大な阿蘇を横
断し、久住から大分に入り
ました。



紹介者
中村幸子
九州横断の道阿蘇くまも
と路推進協議会事務局長。
くまもとの道を語る女性
の会会長を務め、情報誌
編集長や地域活動を紹介
するサイトのプロデュー
サーの肩書きも持つ。

下町風情の構築の4つ。
阿蘇の草原は「野焼き」に
りこれまで維持されてきた
たが、近年は社会情勢により「野
焼き」が難しくなっています。
さらに、細川家54万石の城下
町として栄えた熊本市は、開
発が進み城下町の風情がな
なりつつあります。

九州新幹線全線開通を背景
に、九州最大の観光地・阿蘇
へのアクセスの充実や阿蘇草
原を含む景観の保全と魅力づ
くり、ルート周辺の自然・食・
水・温泉がある地域の「おもて
なし力」の向上、豊後街道沿
いの宿場町の風情の復活も進
められています。

世界一の阿蘇山で魅力づくり 豊後街道沿いの宿場・城下町復活へ

世界一のカルデラ火山・阿蘇山を擁する
阿蘇への来訪者は年間1800万人。
豊後街道や今年築城400年を迎える
熊本城を資源とした取り組みが
活発化している。



ちよつと寄り道 お近くのるば

九州とるば

- 1 往生岳の火文字
熊本県阿蘇市西湯浦
[スカイライン展望所駐車場]
投稿者：石浦幸人
- 2 素晴らしい眺め
熊本県阿蘇市山田
[大観峰茶屋駐車場]
投稿者：印籠の獅子
- 3 鍋が滝
熊本県阿蘇郡小国町大字黒淵山角下鶴
[鍋が滝駐車場]
投稿者：小国町役場地域振興課
- 4 阿蘇草千里
熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽
[阿蘇草千里駐車場]
投稿者：長 吉秀

桑野 最近、私は北海道へ行ってきましたが、美しい風景がどこまでも続いています。本当にダイナミックでしたが、道を行くことに変化する九州の景色、多様な自然を再認識しました。

九州は北海道や沖縄と違って、四季がはっきりしています。日本人が俳句を詠む世界がすべて、九州の風景につながっているのではないのでしょうか。これはすごい強みであると思います。でも九州の人たちは、今まで少しも自慢してこなかった。

世界の中の観光地を 目指そう——樋口さん

しかし、風景街道を考える上で、もう一度自分の地域を見回して、自慢できるものは何かと探して見ると、その土地の風景や人々の暮らしの良さが見えてきたと思うのです。「実は、自分たち地域もすごいんだ」と思えるようになり、訪れる人たちに自信をもって伝えていきたいと思います。この良さを自分たちだけでなく隣の人もちも力をあわせて外にアピールすることの大切さを実感してきています。

玉川 九州の素材にはいろいろな評価があるわけですが、九州の資源や

風景街道をどう評価されていますか。樋口 九州は、北海道や京都と比べてどうこうとかいうスケールの観光ではなくて、世界の中の観光地になるポテンシャルを持っていると思っています。

イタリアにトスカカーナ地方があります。スローライフとかスローフードで最近、非常に脚光を浴びている所ですが、九州はまさに「東洋のトスカカーナ」だと私は思っています。それは単純に、ワインに対して地酒や焼酎があるとか、石造りの町に対して、こっちは城下町——ということだけではなくて、九州人の人柄とか、温暖な気候で豊穡の土地であるとか、古い歴史など、世界に誇れるものがないとないある地域だからです。

さらに明治維新以後の九州は、大陸をにらんで非常に大きな位置づけをされ、日本初の製鉄所もまず九州に造られた。これらさまざまな近代化遺産といわれるものがたくさん残っている。歴史遺産と自然の風景が重なったパッケージの魅力は、イタ

リアのトスカカーナ地方とい勝負だと思えます。ただいせん、コマールやマーケティングがまだきちんと来ていない。

小原 確かに北海道には、自然の景観一つ一つのスケール感はそのすぐいものがあります。また北海道の食べ物もおいしいけれど、素材そのものの良さがその特徴です。

一方、九州には食材の良さとともに、優れた加工食品やそれぞれの土地で多彩な郷土料理がある。そして北海道に決定的に足りない歴史がある。もう一ついえば、アジアに近くて、九州内を日常的に韓国や中国の方たちが歩いている。これは国内の他都市・地域にはないことですよ。由布院にも、アジアからの観光客がいつい来ていらつしやる。韓国の方にとつて、温泉はすごく魅力的ですし、特に宿泊を考えれば、そこには人と人の交流がある。九州には多様な魅力があると思えますね。

観光と暮らしの結び目に

玉川 樋口さんは、玄界灘風景街道を設定するにあたって、唐津の地域資源を調査された。ルート選定の苦労や新たな発見などはありましたか。

よく売れているということ。韓国の方が個人で、あるいは少人数で移動するときにこのパスを利用していただいているようで、SUNQパスの4分の1を韓国で販売しています。今年7月からは台湾でも販売しており、海外からの来訪者増に寄与できたかと思えます。

人を動かすための 情報発信を——桑野さん

玉川 九州は一つのバスで回った方が得だと。つまり、海外の人たちから見ると九州は一つの地域なんです。もっと海外の方にアピールしたいですね。

樋口 唐津で言えば、有田焼や伊万里焼が国際的に有名ですから、そういうピンポイントの目的でいらつしやる海外の方がいます。そういう人たちは、その雰囲気のあるところに泊まりたいし、途中で変な風景に出くわすことなく完結した旅をしたいと思つている。そういう人たちのためには、相当細かいところまで書き込んだガイドブックが必要ですね。

桑野 情報に関して、こちらがこうあるべき姿みたいなものを発信し



玉川 孝道氏
日本風景街道戦略会議委員、九州風景街道推進会議専門小委員会委員長。道守九州会議副代表世話人も務める。

樋口 唐津市は平成の大合併で七山村や厳木(きゅうらぎ)町など、生活圏がぐーんと広がってしまった。市役所のスタッフだけでは全然わからない状況になったんですね。それで地元の人たちに加えて、市役所内の道路や公園建設、教育委員会などさまざまな部署が横断的に集まって議論をしたんです。これが良かった。皆さん初対面だったんですが、こっちに曲がると遺跡があるとか、昔の窯跡があるとか、この並木道は誰が作ったとか、どんな話が熱くなつていく。そういう話をうかがっているうちに、道の役割とは単にドライブして通過するというようなものではなく、おそらくネットワークとしてのソフトウエアなのだと思えるようになりました。結論から言うと、玄界灘沿いの東西を結ぶ海岸の道に加えて、八の字型のルートを作り出すことが出来ました。こういう作業は唐津に限ったことではないと思います。行政境界ではなく、暮らしの

ていくことが必要だと思います。由布院で海外からの個人の旅行者が増えてきているのも、そういう情報がかかり発信されているからだと思えます。

たとえば観光客のターゲットである福岡都市圏の人たちにおすすめるルートや沿線の情報を伝えられ

ば、福岡の人たちは動いてくれると思います。ちゃんとした情報を多様なチャンネルで伝えていく。そういう戦略を持って取り組むべきだと思います。

道守が地域の魅力を演出

玉川 街を歩けば「この場所に、そういう歴史があったのか」「この通りはこういう由来があったのか」と発見や驚きがある。それで街や地域に対する愛着心が湧き、誇りを持ち、そして、道や通りをきれいにしようとみんなで掃除するなどの行動へと広がっていく。道を守るのは住民の責任だけではなくて、行政とのコラボレーションです。道守と行政のあり方や、風景街道の中の道守の活動は大きな意味を持ちますね。

小原 住民の方々が道路や周辺の空間を自分たちのものとして見守って



小原 恒平氏
1953年岩手県生まれ。1977年旧運輸省入省。06年7月九州地方整備局長。

生活圏、あるいは地形的なもの、あるいは川の流域など、それが集まると九州になる。そういう組み合わせ方を、風景街道を作る中でうまくやっていくと、全体がうまくネットワークされていくという気がします。

道もある。それらを目的地に応じて組み合わせればいいのです。後は私たち行政がどこまでそれを応援できるか、そういう仕掛け作りにかかっています。しかし、滞在したいと思わせるのは、やっぱり地域の魅力であり、人の魅力だと思います。

小原 そうですね。今はどこを回るにしても、通り一遍のワンパターンのメニューではうまくいきません。どこどこをを行うかとか、そういう多様性のある、あるいは選択ができるというのが九州の強みであり、大きな可能性を秘めているのです。

観光には食べ物と移動と宿泊、いわゆるアゴ・アシ・マクラというんですが、これがワンセットでなければなりません。九州の場合、食べ物と宿泊はいいが、移動については、まだ厳しいところがある。移動手段は道路だけでなく、空路や海路、鉄

道だけ

道だけ

いただき、何かあったときには私たちが行政と一緒にやってより良いものにしていく、そういう関係は私たちにとっても大変心強いのです。それが国土形成計画の広域地方計画の中での新たな構想につながっているわけですね。風景街道には、それぞれの地域でさまざまなやり方があっていいと思います。行政側からいろいろなことを言うつもりはまったくありません。ただ、今までの行政と住民

議論と協働によって

共に成長

小原さん

街の清掃活動や不法駐輪の対策、交通渋滞解消を目的に社会実験も実施している。

の対立の形、利害関係でものを言うのではなく、一緒になって「何とかしようよ」というある種のコラボレーションをして行けば、良い意味での日本型の民主主義が出来ていくことではないでしょうか。

桑野 道守の活動によって、また他の地域の方たちとも情報を共有できるようにになったことは大きいですね。



桑野和泉氏
1964年分県湯布院町生まれ。由布院玉の湯社長。07年6月より由布院温泉観光協会会長。社団法人ツーリズムおおいの会長などを兼任。

は同じ。きちんとしたアクションプランのベースになる戦略を作る上でも情報提供する組織が存在していることは、道守を住民主体でやっている上で、非常に重要なこと。そういう組織が九州でも必要ではないでしょうか。

桑野 地域にいますと、この専門集団の方の必要性を感じます。そろそろそういう段階に入ってもいいという気がします。

戦略を練り、交流を促進

玉川 最後に、これからの九州風景街道の展開や方向性について、提言を。

小原 九州には素材が豊富にあるが、それを生かす道具立てがまだ十分ではありません。東京で開かれた広域地方計画の会議で、ある方が

「九州の人たちは、お国自慢をするんですね」と、驚いていた。お国自慢ができること、もっと言えば、お国自慢ができる人がいるというのはすごいことです。素材とか道具立てを生かすのは人です。私たち行政も地元の方たちと風景街道や道守の活動など議論していく中で、一緒に協働し成長していきたい。そういうことで、

これはやっぱり道守が大分だけ、熊本だけではなくて、オール九州の中で動いてきたことの成果だと思います。九州の風景街道は、ルートだけにこだわるのではなくて、オール九州でやっていくようなものに育っていくといいですね。

玉川 都市部における道守の活動はどう広がっているのでしょうか。福岡の天神のど真ん中で、「We Love 天神」という官民一体の組織がある。

明石 4月に「We Love 天神」協議会」という運営組織を立ち上げました。民間の事業所、商業、NPO団体、メディア、大学、行政など、全体で約90の団体が構成されています。目標は「歩いて楽しい街づくり」。天神をもっと楽しくして、もっとお客様に来ていただきたい。そのためにどう

いうイベントをしたらいいか、交通渋滞をどう解決していくか、あるいは自転車の不法駐輪と事故をどう



地域づくりや地域の未来をどう描いていくかというコンセプトが一層深まる気がします。

明石 今、企業も産業界も海外といろんな競争をしており、都市や観光も大競争時代に巻き込まれていきます。それぞれの観光地や都市が個々に魅力を高めることは大切ですが、単独で競うのではなく、九州の風景街道をつなぐ、あるいは九州から韓国や中国大陸へのルートを作るなど、多くの地域の人々が一緒にいて、九州全体で魅力を磨いていくことが大競争時代に九州が生

き残っていく方策だと思います。その中で地域の活性化が生まれて、自立していく基盤になる。風景街道としてはそういう展望を持って歩んでいきたいと思っています。

多様だからこそ 一体となつて 明石さん

桑野 私が風景街道に期待しているのは、都市と農山漁村をどうつなげていくかという課題に対して、風景街道がその結び目になる可能性があ

防いでいくか、防犯体制をどうするか、美化をどう進めるか。このような都市問題を解決し、将来にわたって天神がより安全で、アクセスしやすい、魅力ある街づくりをしていくためのガイドラインを作っていくと考えるています。皆さんと十分話し合っていていい街にしていきたいと思

小原 都市の景観で一番大切なのは、そこに人がいるということなのです。建物と道路と人が調和した空間を形成していなければなりません。調和というのは、それらが程良く出しゃばらないことだと思

すごく人が多くて、人が行き交う道や空間がそれなりの景観を形作っている。その一方、静かで落ち着いた生活空間の町並みもある。そういう景観と行き交う人たちが住んでいる人の匂いが、すごくいい雰囲気を出して、外から来た人や観光客を引き付ける。加えて福岡は屋台が有名で、昼と夜の表情があるのも魅力的に映っているはず

です。ただ、街の魅力はどうつくっていくかという

るからです。都市の人たちに農山漁村に来てもらって、失われていく自然や暮らしについて、その地で感じても

は地域間が30分圏内、60分圏内、2時間圏内と、程よい距離関係にあります。そこに魅力的な九州風景街道があると行き来しやすい。また、志ある人たちがこの風景街道沿いに何か形を見せていくことによって、自分の村や町を変えていくことも出来るのではないかと思います。

玉川 蒲江・北浦大漁海道の蒲江(大分県佐伯市)に行ったときに、魚網を直しているおじさんと座り込んで話をした。家の前で網を干す、まさに漁村の原風景。ところがそのおじさんは「あんた、あと10年もわしらは持ちやせんかね」と言う。このままだ

つたらこの風景はなくなっていく。やはり都市からそこへ訪ねていく人がいて、そこにお金を落とすとしてくれるような経済的な仕掛けや仕組みが必要です。山あいの棚田だって、あの狭い田んぼを見る方は

の、そこに住んでいる人たちが一番大事にすべきもの。行政は道具立てや支援ツールを提供するだけなのです。具体的には、道具立てとして電線の地中化だったり、看板の撤去だったりするわけですが、最後は住んでいる人たちが、自分たちの街をどうするかというところが、一番ポイントになると思っています。

玉川 外国ではどういう取り組みをしているのでしょうか。

樋口 環境保全と地域振興を主な活動目的にした一種のシンクタンクが行政組織として存在しています。この組織は、行き過ぎた開発の抑制や、環境保全のためのルール作りなどの権限も委ねられています。そのシン



樋口明彦氏
1958年東京都生まれ。通算7年米国で暮らし、アーバンデザインや市民参加型まちづくりプロジェクトに参加。99年より現職。専門は景観デザイン。

クタンクは、リージョナル・プランニング・エージェンシーといわれ、リージョン、つまり地域単位で、行政の枠を超えて、一つの経済圏だとか一つの文化圏だとかで組織されている。「We Love 天神」の90団体は、まさにそういう位置づけとして

いいけど、作る方はただごとではないわけです。人の生活の糧をつくり出している風景というのが、北海道と違って九州にはある。そこに魅力と辛さと両方があるように思います。樋口 お客さんが来るようになったら、すぐ看板を出してという、ひと昔前の日本人のものの考え方はなくて、もともと鷹揚に、自分たちの普段の先祖伝来の暮らし方をする。それがエ

コライフであったりするわけで、それを外から来た人が見て「すごいですね、素晴らしいですね」という。地元の人には「せっかくだらいいから、これでも食べていきなさい」と何か出したら、これまた「すごい」というような交流が九州の風景街道にはあると思います。そういうことを地道にゆつくりとやっていく。しかしそこには何らかの戦略が必要

人の風景支える 仕組が必要 玉川さん

だと思

「日本風景街道」と九州での展開について

九州風景街道推進会議事務局（九州地方整備局道路計画第二課）

歴史、文化、伝統、心、風景を大事にし、地域の人々とその地域を訪れる人々が楽しく交流できるような仕組みづくりが目的の日本風景街道。地域住民、企業、行政など官民が協働で実施することを通じて、全国に美しい風景を広げていこうとしています。

平成17年12月7日に、日本風景街道の全国的な取り組みとして、日本風景街道戦略会議（委員長、奥田碩・日本経団連名誉会長）を設置。全国から応募があった75のモデルルートへの視察・調査などを経て、平成19年4月20日に「日本風景街道の実現に向けて」と題して国土景観の形成を目指した国民的な運動を」と題して提言がとりまとめられました。

全国一斉に登録受け付け

提言においては、日本風景街道の理念、構成する要素（図-1）、基本的な枠組みがとりまとめられ、枠組みの具体例が示されています。国土交通省では平成19年度から、提言を受けて風景街道の登録、支援に関する具体的な取り組みを開始しています。

風景街道の登録では、地域のさまざまな活動団体と道路管理者などが風景街道パートナーシップを締結。全国地方ブロックごとに設置される風景街道地方協議会に登録申請を行い、協議会は登録条件（表-1）を満たすものに対して登録証を交付。風景街道パートナーシップが行う活動に対して、さまざまな支援を行うこととなります（図-2）。登録の受け付けは、平成19年9月10日より全国一斉に開始されており、今後、継続的に実施されます。

九州風景街道推進会議の設立

九州で展開される日本風景街道の取り組みを「九州風景街道」と呼ぶ。平成19年3月7日に、風景街道地方協議会にあたる組織として、九州風景街道推進会議（会長、明石博義・九州経済連合会副会長）が設立された（図-3）。同会議は、九州風景街道に関する取り組みを円滑かつ効果的に推進することを目的としています。

同会議は、九州風景街道に関する基本的な方針を策定、支援施策を企画・立案のほか、風景街道の募集・登録を行います。構成メンバーは経済界や観光関係団体の代表者、学識者を中心。下部組織には、同会議の主要なメンバーから構成される基本問題小委員会と、九州地方整備局および各県の道路管理者から構成される行政連絡小委員会が組織されています。

また、同会議とは別に、風景街道に対する情報提供や各風景街道間の意見交換を促進することを目的として、風景街道の代表者が参加するルート代表者会議を設置。同会議とルート代表者会議が、互いに調整し情報の共有化を図ることにより九州風景街道を推進していきます。

風景街道の特長を生かした支援の実施

同会議は九州風景街道支援計画を作成し、九州風景街道全体の支援と風景街道個別の支援を検討します。九州風景街道の推進のためには、各々の風景街道の特長を生かした活動に対して、個別具体的に支援内容を検討することが重要です。そのため、各風景街道に対して活動計画書を任意で作成してもらい、活動計画書に沿った支援を行います。具体的には、美しい景観づくりのための道路整備や地域資源の魅力を高めるための調査や活動に対する支援等を地域の方々と話し合いながら実施します。

日本風景街道戦略会議の提言によれば、おおむね3年後をめどに風景街道を評価する全国的な枠組みが構築されることとなります。今後、九州各地の風景街道の活動を充実させ、全国的にも高い評価が得られるような風景街道を九州全体に展開することを目指しています。

図-1 風景街道を構成する要素

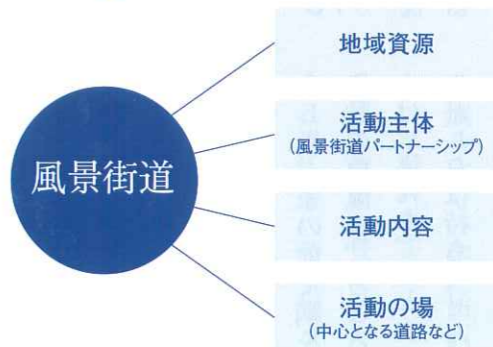


表-1 登録条件

- 風景街道パートナーシップが組織されていること
(注) 暴力団その他反社会的活動を行う団体は除外すること
- 日本風景街道の地域資源のうち、いずれか一つ以上の資源を申請している「風景街道」に有していること
- 風景街道パートナーシップが日本風景街道の理念に賛同し、それらに合致した活動を継続的に実施していること
(注) 特定の政治的及び宗教的信条にもとづく活動は行わないこと
- 申請している「風景街道」に「中心となる道路」が存在していること

図-2 日本風景街道の仕組みの概要

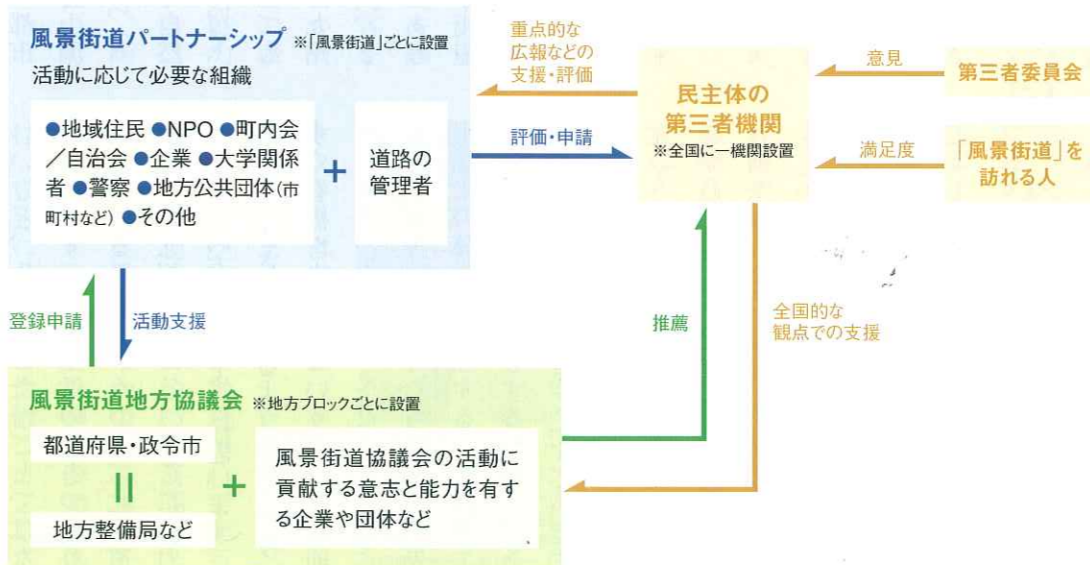
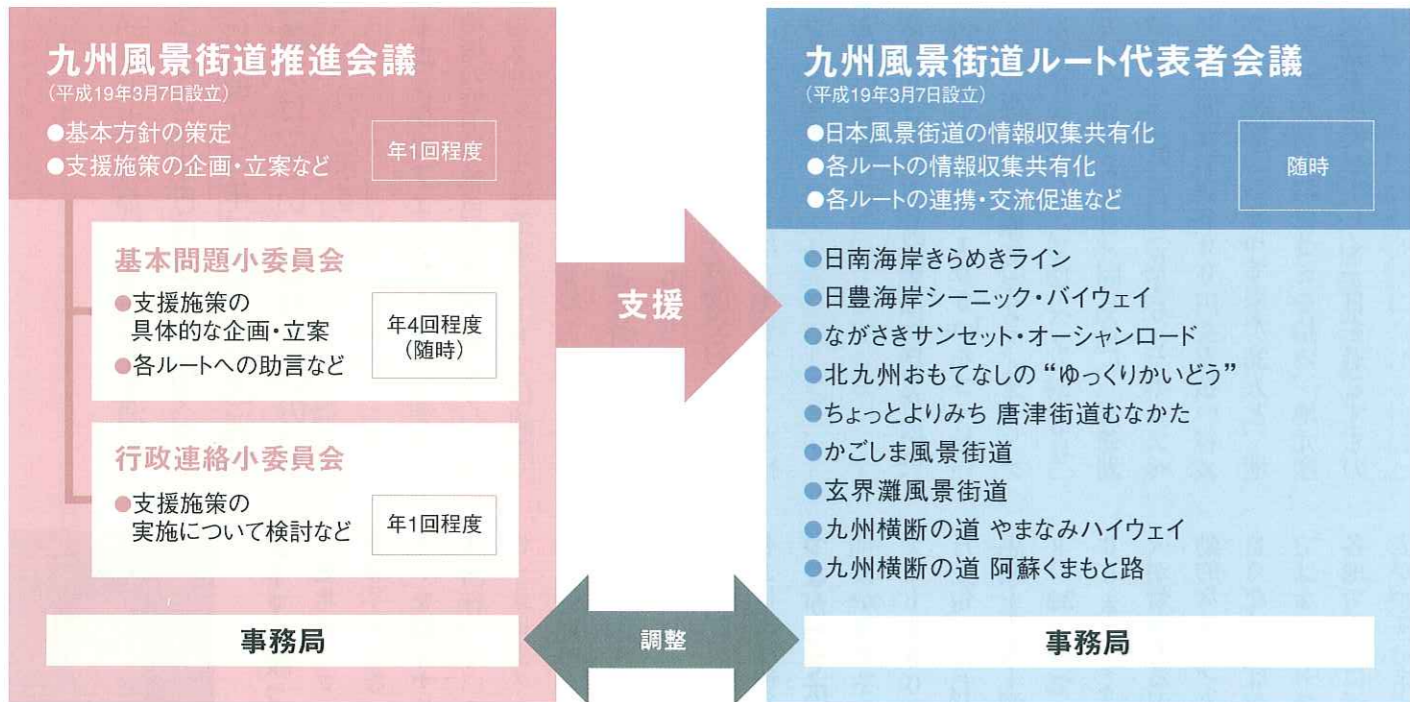


図-3 九州における推進体制



※九州風景街道のより詳細な情報については、下記のホームページを参照してください。

<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/fukeikaido/>



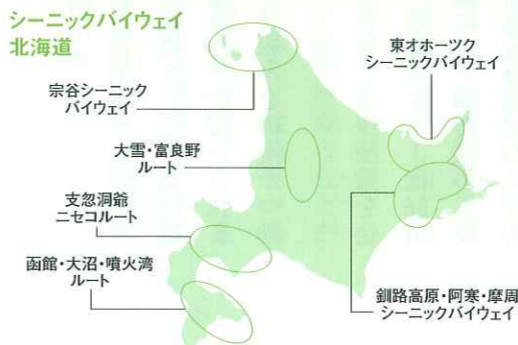
住民が主役のシーニックバイウェイ 3年目を迎えた北海道 カフェ、ゴミ拾い、キャンドル



ライダーの聖地でもある「開陽台」に隣接する牧場内にカフェを開設



キング・オブ・クリーンウォーク



「シーニックバイウェイ北海道」は2005年5月から本格スタートし、現在3年目。240の活動団体がやっている取り組みの一部をご紹介します。

シーニックカフェ

地域の魅力を景色と味とで楽しむ「シーニックカフェ」は指定ルートでは釧路、候補ルートでは十勝の2ルートで特に熱心です。開陽台牧場（中標津町）では、1週間で600人が来場しました。ヌプカの里（士幌町）は、1ヶ月間で約2100人が来場。好評を受け、冬もカフェを続ける予定です。

ゴミ拾いも楽しく

9月9日、参加者の体力に合わせ12km、22km、そして42・195kmをゴミ拾いしながら歩く「阿寒摩周キング・オブ・クリーンウォーク」というイベントがあり、92人が参加しました。同じ日に、洞爺湖周辺では「ヨゴサン（R453）キャンペーン」を開催。2000円を支払いバスツアーで札幌からやって来た36人と、地元の人たちが一緒にゴミを拾い、地元産の味覚を堪能し楽しく一日を過ごすものです。



有限責任中間法人
シーニックバイウェイ
支援センター
事務局長
かとうけいこ

テーマを絞ったツアー企画

東オホーツクでは、地元のカメラマンがガイドとなって、ルート内の撮影ポイントを紹介する「撮影ツアー」を年に3、4回行っています。毎回20人以上が参加し、リピーター率が高いことも特徴です。8〜10月で10回催行した「支笏シーニックシャトルバス」にはのべ176人が参加。ガイドは、地域の活動団体の方。支笏湖誕生の歴史や、自然、そしてローカルネタをまじえた紹介は大好評だったそうです。

つながって広がる温かい光

あかりで冬の道をつなぐ「シーニックナイト2007」は、今年1月末から2月上旬に行われました。同日、同時に恵庭〜千歳〜洞爺〜ニセコの30カ所です約3000本のキャンドルに火が灯される温かくて感動的なイベントです。「楽しくなければシーニックではない！」を合言葉に各地で着実に活動の輪は広がっています。

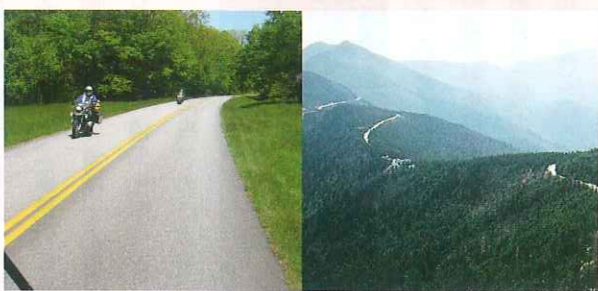


幻想的なキャンドルの灯り

年間22億ドルの経済効果 米国東部に全米屈指の シーニックバイウェイ



山並みを縫うブルーリッジパークウェイ



ブルーリッジパークウェイの風景

日本風景街道戦略会議における検討と提言を経て、各地で協議会が結成され、各ルートの登録が始まっている。今、まさに日本風景街道が始まろうとしている。しかし、その目的とする、美しく、活気にあふれ、人が元気な地域、訪れる人が楽しめる地域への道のりは遙かであり、日本風景街道を長く運動として続けることが重要である。そのことを考えるために、アメリカにおけるシーニックバイウェイとニューデール政策の関係を紹介したい。

ニューデールはいうまでもなく、アメリカ合衆国第32代大統領ルーズベルトによって始められた経済政策であり、わが国ではテネシー川総合開発（TVA）が有名である。しかしニューデールではTVAにとどまらず、若年層の教育、農業の経済的安定性確保策、交通インフラ整備など多くが行われている。パークウェイという名で多くが整備されている観光道路整備もニューデールの主要部分であることは、しかし、わが国ではあまり知られていないようである。首都ワシントンのポトマック川沿いで市民の憩いの場となっているGeorge Washington Memorial Parkway、フロリダ半島の南端からキーウエス

トを海上200kmに渡って結ぶFlorida Keys、そして今回紹介したいBlue Ridge Parkway（BRP）などである。これらは、いずれもニューデールの産物である。BRPは、テネシー・ウエストバージニア・ノースカロライナの3州をまたいで、2000m級の山地の尾根を延長800kmに渡って走っている。気分の良いドライブが楽しめる心地よい道路である。1934年の建設開始時には既に、観光開発のためには美しい景観とそこへのアクセスが、そして多様な楽しみ方ができることが重要であると認識されていた。周辺は国立公園に指定され、国立公園局によって維持整備が進められているが、今年年間2000万人の観光客を惹きつけ、22億ドルの経済効果を産み出している全米屈指のシーニックバイウェイとして名高い。このように、アメリカのシーニックバイウェイは最近脚光を浴びているものの、実は長い努力と積み重ねの上に、実現されつつあるものである。日本風景街道もこのことを是非見習いたい。



筑波大学教授・
日本風景街道戦略会議委員
石田東生

奄美 緑と、歴史と、道と、重層の島

風景街道にチャレンジ

世界自然遺産へ人々集う

「道の島」「海の道」—そんな言葉が数多く残る琉球弧・南海諸島。「日本風景街道」にふさわしい、世界自然遺産指定へのステップに—そんなスケール大きな官民合同の検討が始まった奄美を訪ねた。

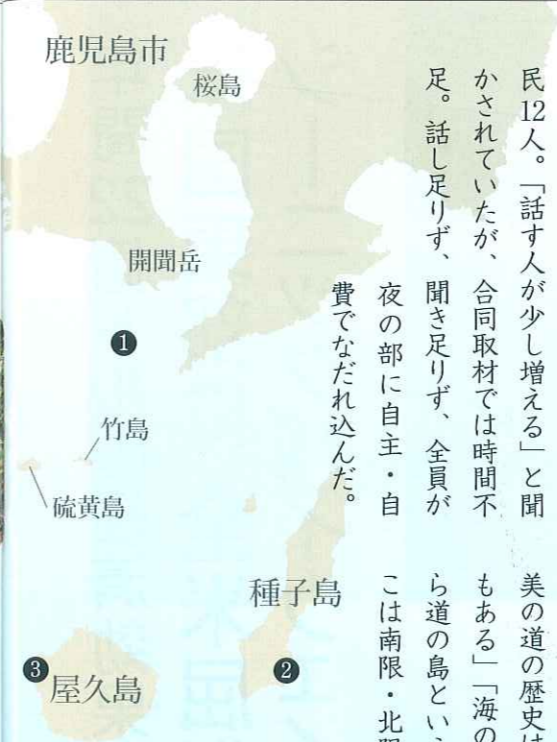
「道を守って私たちのキヨラの道づくりと同じ」と重信千代乃さん（とびつきりまちづくり塾代表）。キヨラの道？「清ら、美らとも書く。沖縄のちゅら（美ら）と同じ」。住民の日々の沿道美化植栽活動で、重信さんは、県・自治体との協定・協働化の仕掛け人の一人だ。すでに島内8カ所あるという。



「奄美の寅さん」花井恒三さん(上)と重信さん(下)

「道のNPOをさっそく立ち上げよう」—自称「奄美の寅さん」花井恒三さん（奄美市役所OB）は呼びかけた。名瀬の小さな居酒屋、集まったのは官民12人。「話す人が少し増える」と聞かされていたが、合同取材では時間不足。話し足りず、聞き足りず、全員が夜の部に自主・自費でなだれ込んだ。

「人・モノが行き来するのが道、奄美の道の歴史は旧石器時代から。遺跡もある」「海の道、島伝いの要衝だから道の島という」「動植物も同じ、ここは南限・北限が入り混じる」「マン



種子島のロケット発射台



海の道から眺める開聞岳



鹿や猿が暮らす屋久島の林道



奄美の青い海、ダイビングも盛ん



マンロープ原生林

政が認めてくれたんじゃね。特段の補助はない。看板を立ててくれた」「本茶トンネルができて私らは助かった」「本。道は大事にせな」—みなさん、負いもくつたくもない。



道路清掃する生徒たち

自慢の松並木を通り北上。蘇鉄と芭蕉の群生は険しい斜面をのぼり、全山蘇鉄・全山芭蕉の装いで東シナ海の水平線を望む。人間の植栽は自然の営みに比べればささやかだ。名瀬への帰路、ごみを拾う芦花部小中学校の子供たちに出会った。奄美の風景は、自然と人がつむぎ合い、どこまでも美しい。

「道守って私たちのキヨラの道づくりと同じ」と重信千代乃さん（とびつきりまちづくり塾代表）。キヨラの道？「清ら、美らとも書く。沖縄のちゅら（美ら）と同じ」。住民の日々の沿道美化植栽活動で、重信さんは、県・自治体との協定・協働化の仕掛け人の一人だ。すでに島内8カ所あるという。

「道の島」「海の道」—そんな言葉が数多く残る琉球弧・南海諸島。「日本風景街道」にふさわしい、世界自然遺産指定へのステップに—そんなスケール大きな官民合同の検討が始まった奄美を訪ねた。

日本の原風景を見た 画家と作家

奄美の自然に生涯をかけた孤高の日本画家がいた。田中一村。50歳のとき奄美に移り住み、畑を作り菜食、細工場で数年働き、画材代が貯まると制作に没頭。その繰り返しで69歳孤独死まで奄美の自然を描き続けた。一村はよく歩いた。絵は、細部にニライカナイの神宿る、日本画特有の精緻さ端正さに南の光が射し一木一草一鳥一石の存在感。画業の評価は死後。いま、奄美空港近くに記念美術館がある。

「鹿兒島と沖縄はいま、奄美の2兄弟。行き来こそ」と花井さん。「あ、明日は地元FM局の番組収録を入れていきます。大いに風景街道や道守のPRを」—最後に取材の窓口役、森耕三さん（鹿兒島県大島支庁係長）が念を押した。大変な歓迎ぶりだ。旅人が始めた年一度の伝統行事。手作り面の寸劇風の踊り10番と人形劇計11番。羽織袴に山高帽の進行役はサンバト（三番叟）口上で言う。「トーダイ（東西）トーダイ、クヌ村は三千年の昔から踊り」。カマ踊りは鎌を持ち、キンコウ節は吉田兼好・徒然草が素材。スクテングワはもう意味不明という。子供相撲や沖縄エイサーなど前座を含め諸島指定重要無形民俗文化財となっている。

「海の道」体感と船中泊で鹿兒島に戻り、高速船で屋久島と種子島を巡った。ここを千年前に通った遣隋使・遣唐使船の苦難はいかばかりだったろう。古杉、猿・鹿と出会った屋久の世界遺産の道。ロケット基地の種子島、鉄砲伝来地近くで道清掃の子供たちに出会った。短い旅で三度目だった。どの島も道が美しい。「おいでなさい」と語るように。九州の道守たちの修学旅行を、あるいは交流会を、南の島々で、そんな案が浮かんだ。（滝平道郎）

グローブの森、芭蕉や蘇鉄の群生。松並木もいっ……。誰もが熱っぽい。顔ぶれは世界自然遺産指定を目指す奄美ミュージアム構想に係る面々だ。花井さんが用意したロードミュージアム企画は泥染（大島純）街道など64。話は尽きない。が、南の島の夜は長い。

「美らの道づくり」 奄美版道守活動 亜熱帯北限・奄美の緑はどこまでも濃く、厚い。山笑う—季節違いの季節が浮かぶほど全島全山緑。琉球黒松が多い。畑はサトウキビの背高い緑。リアス式海岸でトンネルが多く、抜けるとまた緑。沿道の植栽にハイビスカスやブーゲンビリアの赤花、レンギョウの黄が交じり南の島を彩る。時折、沿道に花壇や鉢植えが並び。道がどこもきれいで、ごみが見当たらない。龍郷町中勝、国道58号の花壇に降り立つと老人会の恒田薫良・孝子夫妻ら6人と町役場道路担当者2人が出迎えてくれた。

「道向こうの鉢植えの列は若い人たちが世話している」「キヨラの道に指定されて5年か。ずっと昔から道の世話は集落でしとったが、大事さを行

の心は数万年の歴史の自負に裏打ちされている。



奄美の地域づくりに関わる鹿兒島県職員森さん



奄美「美らさん道づくり」中勝若返り会

魏志倭人伝のみちが蘇る 日韓の風景街道

〜日韓シーニックバイウェイを構想する〜

2002年のワールドカップサッカー共催、韓流・日流ブームなど日韓交流が深化を続けるのを見てみると、日本と韓国、とくに九州と韓国との距離の近さを強く感ずる。実際、九州からの距離をみると、韓国の大都市であるソウルや釜山のほうが東京や大阪よりも近い。一方歴史を振りかえると、九州と韓国とは心理的に一層近く感じられる。大陸から日本への技術や文化の伝来、秀吉の朝鮮出兵などの争い、朝鮮通信使などの交流といった数々の歴史が存在している。

こうした日韓の歴史や各地の風景などの地域資源を切り口に、日本と韓国とをルートでつなぐ風景街道が構築できる。舞台は九州北部、韓国南部、そして両者を結ぶ壱岐・対馬である。日

韓にかかわる史跡を中心に、日本人、韓国人の双方が興味を持って周遊できる韓国南部―壱岐・対馬―九州北部の3ブロックから成る「モデルルート」を組み立ててみた。

韓国南部ブロック(地図1)

韓国南部では、3つの世界遺産のほか、秀吉の朝鮮出兵関連のものなど多数の史跡、美しい自然景観などが数多く、これらをつなぐルートの構築が可能である。韓国南部の入口である釜山には、李舜臣の銅像がある龍頭山公園、



地図1

チャガルチ市場(写真1)、海岸リゾート地の海雲台、朝鮮戦争の兵士を祀るUN(国連)墓地をはじめ数々のスポットがある。その北の蔚山には、



加藤清正の築いた日本式山城の跡が今なお残り400年の時を迎えている。そのさらに北には新羅時代の都・慶州があり、仏国寺、石窟庵といった世界遺産、

その他数多くの史跡を有する歴史地区が広がっている。その西に位置する大邱は、朝鮮出兵時に日本武将・沙也可が朝鮮に帰化し定住した村・友鹿洞、リゾート地である寿城などが有名。さらに西へ進むと、世界遺産・海印寺、韓国の代表的霊山・伽耶山がある。南の海岸部へ下ると、朝鮮出兵にまつわる遺構が多数みられ、なかでも晋州市では、日本軍を迎え撃った晋州城(写真2)、壬申倭乱の資料を数多く展示する国立晋州博物館が有名。このほか、亀甲船のレプリカを展示する麗水、朝鮮出兵時の最大の海戦地である閑山島などもある。またこの地区は、複雑に入り組んだリアス式海岸の風景が美しい。



地図2

に福岡方面へ向かうと古代からの日本の歴史をアジア史的観点から捉えた展示で知られる九州国立博物館が位置する。

壱岐・対馬ブロック(地図2)

壱岐・対馬は、古代からの大陸と日本との交流の「道」となった島々であり、歴史をベースとする日韓シーニックバイウェイにはぜひ組み入れたい。

壱岐では、弥生時代の大規模集落が残る原の辻遺跡、古代万葉時代の遣新羅使の墓、朝鮮通信使の迎撃所であった神皇寺跡などがある。また対馬では、南部の厳原に対馬藩時代の藩船係留地・お船江跡(写真5)、



九州北部ブロック(地図1)

韓国南部に対応し、歴史を中心としたルートを構築してみた。九州側の玄関口である福岡市では古代の迎賓館であった鴻臚館跡、漢から贈られた金印



の発見の地・志賀島、元寇防塁跡などの貴重な遺跡が存在している。玄界灘の眺めを楽しむながら海岸沿いの道路を西へ走る

子地区はイカ料理や海産物で知られ(写真4)、壱岐との間を定期フェリー航路が結んでいる。南へ向かうと、朝鮮の陶工により



対朝鮮外交に活躍した雨森芳洲の墓などが、中部では海に浮かぶ光景が印象的な和多都美神社(写真6)などが、韓国までの直線距離が約50kmの北端には好天時に朝鮮半島が見える韓国展望所などがある。



伝来された有田焼、伊万里焼が有名だ。東へ向かうと、弥生時代の大規模な遺構・吉野ヶ里遺跡があり、さら



(写真6)

以上、歴史を主な切り口に代表的なスポットをつないだモデルルートを紹介した。韓国南部、九州北部、壱岐・対馬ともすでに道路網も整備され、またこれらの間を結ぶ海、空の航路網も構築されている。この地域には古代から現代までの数多くの史跡等のスポットが存在している。道路や航路を活用しながらそれらを風景街道としてつなぐことは、日韓の人々の交流の歴史を再現することであり、その文化のルーツ、民俗の展開を辿り相互の理解を深めるうえで意義深いものがある。

※写真はいずれも(財)福岡アジア都市研究所。

指宿沿道修景整備 魅力ある観光地づくり事業

官民一体で看板撤去

風景街道がきっかけ

篤姫を機に発足

「観光地・指宿の景観を守りたい」と、乱立した看板などの全面撤去運動が、今年9月までに約1年かけて行われた。

中心となって活動したのは、鹿児島

島県指宿市観光協会を事務局に、地元タクシー会社やかごしま風景街道関係者、指宿市などの官民一体で組織する「魅力ある指宿まちづくり協議会（山下建二会長）」。

同会は昨年8月、NHK大河ドラマ「篤姫」の放映決定を機にメンバー51人で発足。また鹿児島県でも、平成23年3月の九州新幹線全線開通に向けて、魅力ある観光地づくり事業を平成18年度に創設。事業場所の一つとして、今回の活動場所である大園原交差点が選定された。

同交差点は指宿温泉の玄関口で、景観もよく、ドライバーの目に付き沿道景観、歴史や文化、食や人などの地域資源を見つめ直すことから始まる風景街道づくり。各地の取り組みをご紹介します。



乱立していた看板

やすい温泉街と市街地との分岐点。以前から、市内業者を中心に10数社の看板が乱立していた。観光客や市民からは「指宿温泉らしくない」「せっかくの景観が台無し」など、厳しい指摘を受け10数年の課題となっていた場所だ。

そのため、昨年10月に同会と県、市の担当者が役割分担の協議を開始。県は「看板撤去費用（補償費用も含めて通常1件100万円程度）は無理だが、全面撤去できれば総合看板の設置や周辺の植栽などを県の負担で行う」。指宿市は「総合看板完成後、維持管理面に務める」として合意。

無償、自費を前提に

11月から、同会は22枚の各看板設置業者に向いての撤去依頼を始めた。大半は「以前から景観に合わないと思っていた」と、無償のうえ自

費で撤去することに了承。しかし、数件は「設置したばかり」「移設場所がない」などの理由で、4月まで作業が滞っていた。



最終的には、5月に日本風景街道の撤去費用補助も活用され、22枚の看板をすべて撤去。今年9月、大園原交差点の景観修景整備事業の完成

市民の思いだけでなく、日本風景街道や県、市という官民協働の取り組みが、指宿の玄関口にふさわしい景観に育てたといえそう。同会メンバーの一人で、指宿市役所商工観光課の今柳田浩一さんは「今後もそれぞれの役割の中で、指宿の風景を守り育てたい」と話していた。



指宿市役所商工観光課の今柳田浩一さん

地域一体



風景街道づくり

唐津観光協会「唐津よかばい旅倶楽部」

唐津版さるくで地域浮揚

地元ガイドを主力商品に

独自のツアーを企画、募集

今年4月、社団法人唐津観光協会（三浦睦雄会長）は唐津観光ルートの提案・集客による地域活性化を目的に、通称・唐津よかばい旅倶楽部

より登録場所と隣接する自治体でのみ、可能となった。そこで、唐津市と隣接する自治体を営業エリアとし、旅行プランのすべての業務を受け地（唐津）で仕切る着地型旅行事業を展開している。

夏休みには独自の夏休みツアーを企画・販売。バスで片道1時間の福岡や地元客向けに募集し、86人を呼び込んだ。また、志岐1泊2日旅行も11月下旬から発売した。

「着地型の商品は、ガイド育成が急務」と語るのは、古賀道伸・事業部長。地域の魅力を語るには、地元ガイドしかいないとの考えだ。来



古賀道伸・事業部長
年春には、地元ガイドによるまち歩きをメインとした商品の発売を予定している。

「着地型の商品は、ガイド育成が急務」と語るのは、古賀道伸・事業部長。地域の魅力を語るには、地元ガイドしかいないとの考えだ。来

まち歩きの「必要性」実感

これまでも、ボランティアガイド養成は行われているが、地元ガイドによるまち歩きは、初めての試み。

主力は「唐津版さるく」。10月にはガイド希望者39人が、まち歩きの先駆けである「長崎さるく」を視察。ガイドのコツや対応の仕方などを学んだ。視察に参加した坂本ふみ子さんは「これまで多くのところを旅行して、見せるまち歩きの必要性を感じ



長崎さるくを視察するガイド希望者

玄界灘風景街道

じた。長崎はとても参考になった」。発売予定のコースは、今年築城400年の唐津城を中心とした城内コースと、虹の松原内を歩く松原コースの二つ。さらに、名護屋城跡と陣屋跡を中心としたコースも検討している。

唐津は九州風景街道の一つ、玄界灘風景街道のエリアで、道守団体も多く活動する。古賀・事業部長は「道を通じた連携は必須。風景だけではなく、歴史や食も含めて唐津なりの切り口で観光客を呼び込みたい」と、道守団体との連携も模索する。



活発な意見が出された全体会議



その一歩として、ガイドや観光客にごみ袋を渡し、まち歩きと保存運動を両立していくことも考えている。

かごしま風景街道



唐津よかばい旅倶楽部の拠点・旧唐津銀行本店

（唐津観光協会ATA事業部）を新設した。7月3日には、第3種旅行業の認可を受けた。これは、国土交通省の省令改正に合わせたもの。改正以前は、第3種資格では自社での募集は禁止されていたが、今回の改正に



日本風景街道 シンポジウム in 九州

（世界から日本・九州へ人と道と風景をつなぐ）

日時 12月9日(日) 開会10:00 終了16:10(予定) | メイン会場 福岡国際会議場5階・国際会議室 (福岡市博多区石城町)

定員 400人 | ●参加費無料 お申し込み必要 | ●お問い合わせ 西日本新聞イベントサービス内「日本風景街道シンポジウムin九州」事務局 TEL092-711-5491 ※土・日曜、祝日を除く9:30~17:30

プログラム	
10:00	開会
10:10	基調講演①「日本風景街道について」 国土交通省技監 谷口博昭氏
10:40	基調講演②「アメリカ シーニックハイウェイについて」 アメリカ・バイウェイ・リソースセンター特別プロジェクトマネジャー ヘンリー・ハンカ氏
11:25	事例紹介①「北海道におけるシーニックハイウェイの取り組み」 北海道開発局 和泉 晶裕氏
11:45	事例紹介②「韓国におけるシーニックハイウェイの取り組み」 韓国建設技術研究院道路研究部前任研究員 金 鍾受氏
13:00	基調講演③「フランスの美しい村の景観形成について」 フランス政府観光局局長 カトリーヌ・オーデン氏
13:45	事例紹介③「九州における道守活動との協働」 日南海岸きらめきライン 和田 唯氏
14:15	分科会
16:10	閉会

●基調講演

- 

国土交通省技監 谷口博昭氏
和歌山県出身。1972年東京大学工学部土木工学科卒業後、同年旧建設省入省。中部地方建設局、道路局、大臣官房、旧国土庁計画・調整局などを経て、旧建設省道路局高速国道課長、国土交通省道路局企画課長、近畿地方整備局長、道路局長など数々の役職を歴任。その間、日本風景街道、未知普請等を提唱し、官民など多様な主体の協働による道路行政などを推進。2006年7月より国土交通省技監として活躍している。
- 

アメリカ・バイウェイ・リソースセンター 特別プロジェクトマネジャー ヘンリー・ハンカ氏
1992年、地域ブランニング・開発政府機関「アローヘッド地域開発委員会」の会長に就任。2002年、米国ミネソタ州アメリカ・バイウェイ・リソースセンターのセンター長に任命される。2005年から同センター特別プロジェクトマネジャーとして活躍中。米国44州の126の道路とシーニック・バイウェイを管轄するプロジェクトの総合管理を担当。米国公認プランナー協会会員。
- 

フランス政府観光局局長 カトリーヌ・オーデン氏
1985年、在ニューヨークフランス政府観光局に勤務し、インフォメーション、ビジネス旅行などを担当する。1992~2002年、在東京フランス政府観光局に勤務。フランス政府観光局・東南アジア&インド地区局長を経て、2005年から在東京フランス政府観光局局長として活躍している。

【主催】九州風景街道推進会議、国土交通省九州地方整備局
【後援】九州観光推進機構、道守九州会議、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、北九州市、福岡市、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、熊本日日新聞社、大分合同新聞社、宮崎日日新聞社、南日本新聞社

九州風景街道 編集後記

九州風景街道が力強くスタートしました。登録された9ルートとも、限りない可能性を持っています。登録されるまで、調査、ルート設計、活動計画など多くのご苦労があったと思います。心から「おめでとう」と申し上げます。しかし、勝負はこれからです。9ルートごとに今後の「活動方針」と、決意表明をしていただきました。明石会長を中心とした座談会も「美しい九州」への挑戦、その主役として意欲溢れる語り合いになりました。年一回は道守通信を九州風景街道特集として発行したいと考えています。この冊子に盛り込まれる情報や活動報告が九州風景街道の成長や活動の「エネルギー源」になり、全国への情報発信になるように、編集担当者一同、決意を新たにしています。皆さん頑張りましょう。
(編集長・玉川孝道)

●道守九州会議のお問い合わせ
「道守九州会議」事務局
(社)九州地方計画協会内
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389
ホームページもご覧ください。
道守HP <http://www.michimori.com>
e-mail michimori@michimori.com

九州の魅力的な風景を駐車場から撮影しよう!

九州とるば

「とるば」(フオトスポット&パーキング)は、写真を撮る駐車場(パーキング)のこと。九州の安全な駐車場と、そこから歩いて行ける美しい景色の撮影スポットがセットになっています。九州風景街道のルート内にも、たくさんの「とるば」があります。ぜひ足をお運びください。



- 「とるば」はみなさんから「とるば」情報を応募していただき、ホームページ等で紹介しながら、地域の活性化につなげていくものです。
- 「とるば」の情報提供を行うことにより、道路駐車場の暴威や渋滞・交通事故の減少などの効果も期待されます。



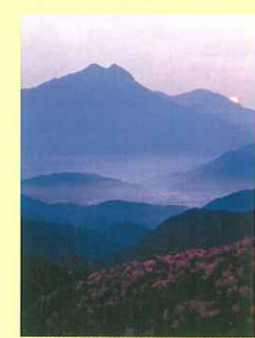
九州とるば 第4回フォトコンテスト開催中!

「九州とるば」へ期間中(2008年1月31日まで)に投稿された全ての作品の中から入賞作品を決定します。ふるってご応募ください。詳しい投稿方法は九州とるばホームページをご覧ください。

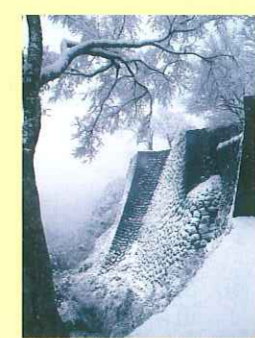
「とるば」で2008年カレンダーを作ろう! 詳しくはホームページまで

とるばフォトコンテストグランプリ作品紹介

第1回から3回までのコンテストグランプリ作品をご紹介します。



第1回グランプリ
「由布岳遠望」
鳥越英次郎氏
大分県由布市湯布院町大字川西
[蛇越展望所駐車場]

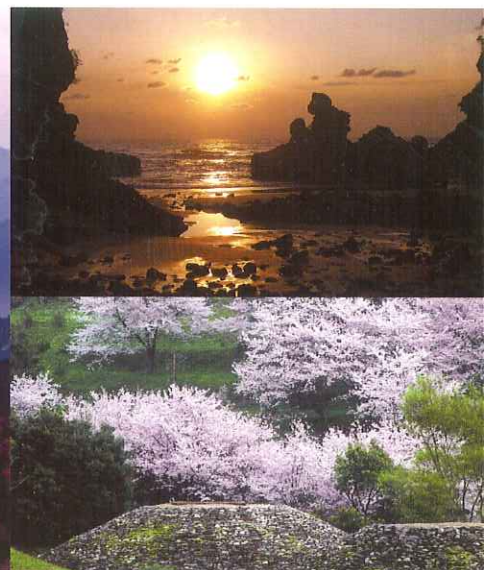
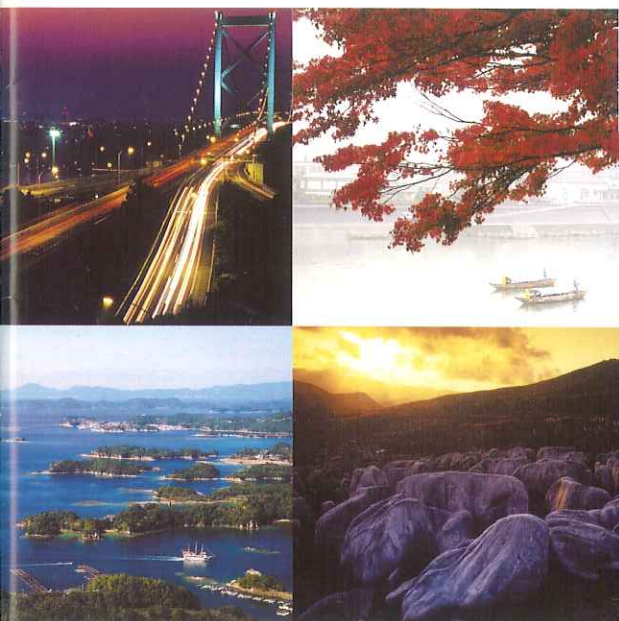


第2回グランプリ
「岡城」
猪野一男氏
大分県竹田市竹田2765
[岡城跡駐車場]



第3回グランプリ
「雨の球磨川」
坂下裕幸氏
熊本県人吉市麓町
[人吉城公園駐車場]

九州とるばホームページ ●<http://www.torupa.com> ●<http://kyusyu.torupa.jp>



広報誌「道守通信」冬号
特別号「九州風景街道」
平成19年12月5日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス michimori@michimori.com

定価 380円 (消費税を含む)